

題材名【空き缶をつぶそう】

領域・教科名【作業学習】

**\*指導方法**

作業の流れ（・手だて、ポイント）

準備… 道具のセッティングをする。自分が準備するものや、一緒に運ぶペアが分かるように写真入りの表にして示す。表では分かりにくい生徒にはコンテナなどの道具に顔写真を貼る。

目標回数を担当教師と一緒に確認する。

作業開始…①→⑤を繰り返し行う

- ① 自分の使うかごを用意し、缶の口を上向きにして入れていく。
  - ・缶が 1 本ずつ立てて入るように仕切られているかごを使用するため、どのくらいかごに缶を入れたら良いか分かる
  - ・生徒の実態に応じてかごの大きさ（6 本入り、12 本入り、24 本入り）を変える



- ② 缶を洗う。両手に缶を 1 本ずつ持ち、水を張ったコンテナの中に一度沈めた後、10 回振って洗う。
  - ・数唱が難しい生徒は自分の名前を言いながら洗う。
  - ・洗った缶は口を下にしてかごの中に戻す。未洗いの缶は口が上向きのため、洗い終わりが見て分かる

- ③ 缶を 1 本ずつ空き缶つぶし機に入れ、バーを踏んでつぶす。
  - ・つぶした缶は空き缶つぶし機の前に 1 本ずつ出てくるため、体感と目で見てつぶしたことが分かる

- ④ つぶした缶を大きなビニール袋に移す。
  - ・片手でビニール袋を持ち、片手でかごを持ってかごの中の缶をビニール袋に移すようにすることで、わざとやりにくい環境を設定する。

- ⑤ 担当の教師に報告し、シールをもらう。
  - 1 サイクル終わったらカードにシールを貼っていくようにして、何サイクルできたか分かるようにする。
  - ・生徒の実態に応じて、始めに目標数のシールをもらい、1 サイクルできたら 1 つずつはがしていくようにしたり、提示されたコンテナの缶をすべてつぶしたら終わりという形で行ったりする

片付け…準備と同じ形で行う。

反省会…がんばった生徒はみんなの前に出て発表する。また、いいあられがあった生徒も前に出て全員で賞賛する。

- ・シールの数を参考にして自己評価できるようにする。

**\*指導のねらい**

・自分のやること（作業内容）や、目標が分かり、意欲的に取り組むことができる。

**\*指導の評価**

・行動に自信が持てず、常に教師の確認を求めていた依存心の強い生徒が自信を持って作業に取り組むことができるようになった。

・はじめ～終わりをはっきりさせること、自分がどれだけやったかが一目で分かるようにしたことにより、自分のやるべきことが分からず、なかなか活動に参加できなかった生徒が自分から動くようになった。

